



特定医療法人社団

# 鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス  
<http://www.hovukai.org/>

第136号

発行:2017年8月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会



## 幹部職員に期待すること

～ 信頼と職場環境がポイント ～

新中川病院 院長 福田 千文

幹部研修会（7月21日）の前日に新中川病院にて定期立入調査がありました。来院された担当行政の代表の方が、開口一番「病院でも犯罪がおきる。そのために病院がどういった整備・対策をしているか重点的に確認します。」と言われ、大変な時代になったと改めて感じました。

私が医師になった頃は、医師も看護師も愛情と熱意にあふれた、人のために働く方がほとんどで、こういった病院内の犯罪に気をつけないといけないということは全くありませんでした。今では監視カメラをつける、施錠箇所を増やすなどといった対策がとられるようになっていきます。ただ、私が思うに、それだけで犯罪は防げるのか？という疑問はあります。結局、人が犯した罪は人に問題があるのではないかと感じるのです。皆、いろいろなストレスを受けながら働いています。個人的なストレス、仕事上でのストレス、このさまざまなストレスを上手く解消し、犯罪をおこさないようにする職場づくりをしないと、根本的な解決にはならないと考えます。

では、その為が一番大事なことは何か。それは、『信頼と職場の環境』がポイントだと思います。いわゆる幹部職員と言われる方々は「人を管理する、指示する権限を持つ」という役目がでてきますが、そこで何か私は偉くなったのではないかと、という錯覚におちいり、自分のまわりの人に何か言いたくなる、何かしたくなる。ようするに上から目線ということです。管理する、指示する権限を持つ、その裏には責任があります。偉くなればなるほど、責任も重くなります。当然、何か指示をすれば、その責任を全部かぶる覚悟で指示しないとイケない。そして部下・同僚・上司、全ての関わりにおいて、『1に

信頼・2に信頼』愛情をもって、信頼して相手を思いやる。幹部職員はこういったことを、もっともっと細かく職場で形作っていかないとイケない立場であると思います。一緒に仕事をする人、全員がお互いに「ありがとう」や「おねがいね」と言える職場でなければ、自己正当化のためにお互いの足を引っ張り合うような状況がうまれてしまう。互いの信頼関係は最重要であります。

幹部職員の皆さんの職場はどうでしょうか？ストレスを溜めた職員が増え、次々と退職者がでていませんか？新しい職員を入れても嫌気がさして辞めていませんか？職場の雰囲気が悪く、職員同士で派閥をつくる、一部の人だけを可愛がる、一部の人だけを敬遠するというようになっていませんか？いわゆる中間管理職の人で、上げかりにゴマをすって、下には管理と指示ばかりの人はいませんか？

管理というのは人を管理すると同時に自分も管理する。自分を管理したうえで、人と話をしないとイケない。自分の好き嫌いがあっても、皆に行き届いた目でちゃんと仕事をして、ここで働く楽しい、やりがいがある。という環境にすることが幹部職員が一番大事なことです。人はつい楽なほうへ流されてしまう習性があり、自分を管理できなくなる人もいます。自己管理できない人は誰からも信用されません。自分一人管理できなくては、部下や仕事も管理できないのは当然です。皆さんの中にはいないと信じています。細かいことは気にしなくてよいのです。「自分自身を管理し部下のモチベーションを管理する。」そのために努力することが大切です。

お互い頑張りましょう。

# 第14回 医療法人社団鵬友会 幹部研修会

平成29年7月21日、箱根ホテルの会議室に鵬友会の幹部職員69名が参集し、幹部研修会が開催されました。まず初めに、池島理事長が開会の挨拶をし、続けて『地域医療構想について』の講義を行いました。講義では、地域医療構想の概要、神奈川県（横浜市）での医療需要の将来像、地域包括ケアシステムの重要性など説明し、その中で鵬友会の目指す方向性を述べ、幹部職員の意思統一や認識の共有を図りました。



池島 理事長

続く池島常務理事の講義では【幹部職員の心得】として、各管理職には強いリーダーシップでチームを引っ張っていくタイプもいれば、調整型、協調型でリーダーシップを発揮する人もいます。それぞれのタイプによっては、その管理職の心得も変わってくるのですが、全てのタイプに共通する管理職の心得があり、それがベースとなっていることが多々あることを述べ、その共通の心得を紹介し、幹部職員を鼓舞しました。



池島 常務理事

## ◆各施設長よりの講演

次に、各施設長より各施設の地域医療構想に向けての取り組みや課題、方向性などわかりやすい説明があり、福田院長（新中川病院）は、表紙で紹介しています『幹部職員に期待すること』について述べました。会の終盤では、今年7月から介護老人保健施設阿久和鳳荘の施設長に就任した藤田施設長の挨拶、今年4月から鵬友会としてスタートした富士宮市にありますフジヤマ病院、介護老人保健施設いかる野、介護老人保健施設リパブルケアの施設紹介があり、終了しました。幹部職員の方々は自らの役割を再認識し、有意義な研修会となりました。

その後の懇親会では、普段顔を合わせる機会の少ない他施設の職員との親交も深まり、非常に実りのある日となりました。

【※地域医療構想とは】

1. 団塊の世代が75歳以上になる2025年に向け、医療提供体制を整備するために、各都道府県が医療機能ごとに2025年の医療需要と必要病床数を推計し、目指すべき医療提供体制を実現するための施策を定めるもの。
2. 平成26年度に成立した医療介護総合確保推進法に基づき、平成27年度から各都道府県で策定を始めている。



末盛 院長



麦倉 副院長



福田 院長



日野 院長



藤田 施設長



田中 副院長



根本 院長



佐々木 施設長



今村 施設長



会場全体



研修前の様子